

◇こども福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
初年次演習Ⅰ	<p>大学で学び始める人たちが、①学ぶ空間であるキャンパスに早く慣れ、②大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、③4年間の見通しを持って専門教育を受ける準備ができるようになること、また、充実した学生生活を自分自身で設計できるようになることを目指す。</p>
初年次演習Ⅱ	<p>Ⅰ期に引き続き、大学生として学ぶための基礎的な能力を身につける。1年次の演習は、原則学生全員が一か所に集まり、お互いをよく知り、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力を養う事を目指す。大学生活を楽しくかつ有意義なものにする始まりの1年であることを自覚する。</p>
教育原理	<p>人間が成長発達する過程には、必ず「教育」の営みが介在していると言える。この、「教育」という人間の営みについて、できるだけ多角的な観点から理解を深めるようにする。とくに、教育の本質、目的、方法について、教育の歴史と現在の取組みについて概観し、今日の教育とこれからの教育を考える機会になるように努めたい。</p>
保育原理	<p>今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史的変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言える。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていく。</p>
こどもと音楽Ⅰ	<p>幼児教育者を志す者として、基礎技能であるピアノ(鍵盤楽器)の修得は最も重要である。初学者・経験者それぞれの進度に合わせた個人レッスンを行うことにより、基礎から現場で使用されている曲まで幅広く修得する。</p>
こどもと造形Ⅰ	<p>保育現場での造形遊び(お絵描き遊び)で生かせる基礎(描写、色彩、色彩構成)や道具の扱い方を学ぶ。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を自由に使い好きなように表現する。材料や道具に十分馴染めることで子供たちは、自然に想像や空間をひろげ、それを絵や工作に表していく。まずは、小さな思いをコンセプトに制作をおこなう。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案する。</p>

◇こども福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
社会福祉	<p>現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。</p>
こどもの心理学 I	<p>人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のつまずきについて理解することも目標とする。</p>
基礎演習 I	<p>幼児教育、保育、こども福祉の基本を個別学習、個別指導形式により学ぶ。学修内容の理解を深めると同時に、自ら調べ、まとめ。そして発表するという個別研究の方法を修得することを目指す。</p>
基礎演習 II	<p>幼児教育、保育、こども福祉のきぞうをゼミ形式で主体的に学ぶ。教員の専門領域における最新の知見等に触れることにより、追究すべきテーマを絞り込み、こども福祉専門演習における学びにつなげていく。また、学外実習を通じて、幼児教育・保育に関する実践力も磨いていく。</p>
こどもと運動 I	<p>乳幼児期から少年期にかけて、人間は生涯のうちで最も著しい発達を遂げる。その発育発達期の子ども達により良い運動やスポーツの環境を提供し、健康増進の基礎づくりやスポーツ活動の活性化を促すのは大人の役割である。本授業では、ジュニア期のスポーツ活動を例に指導者が獲得すべき発育・発達の知識やそれに伴う運動指導の方法等を学ぶことを目的とする。</p>
教育・保育の課程と評価	<p>保育・幼児教育におけるカリキュラムの意義と役割、また教育・保育課程編成の原理と方法を理解する。各園や施設の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p>

◇こども福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
こども家庭福祉	<p>現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷、児童家庭福祉と保育、児童家庭福祉の制度と実施体系について学習し、児童家庭福祉の現状を把握し、その課題について考察する。</p>
教師・保育者論	<p>子どもを取り巻く様々な状況の変化に応じた保育のあり方や保育者の役割や専門性について理解するとともに、保育者としての使命感や倫理観について学び、幼稚園や保育所・施設等で保育を行う者としての自己の課題を明確にする。</p>
教育と福祉	<p>幼児教育ならびに保育を実践するものとして必要な社会福祉の専門知識を中心に、人間福祉とは何かを学び、子どもの生活と家族を支援する基本を理解する。さらに、人間への理解を深め、人間観を培い、人間福祉理念を構築し、人への支援力を涵養する。</p>
社会保障論	<p>社会保障の意義と沿革について理解し、今日の社会保障制度の構造と役割を踏まえ、社会保障関連各法制の概要と特徴、社会保障制度をめぐる諸課題と展望について学修する。</p>
幼児のための福祉教育Ⅰ	<p>福祉教育は、少子高齢社会において「共に生きる社会」と「自立」とは何かを理解し、支え合いを実践する心を養うための教育である。先人の活動と現代の実態から共生社会の実現を考える。また幼児が福祉を理解するために感性を活用する理論を理解する。絵本や視覚教材の活用の意味を子どもたちに伝えることの意義を理解する。</p>
幼児のための福祉教育Ⅱ	<p>「障害」を「生活の困難」という理解をもとに、支えあう心の涵養がその目的である。遊び・手話・絵本を通して福祉教育の方法を修得する。理論に基づく感性を用いる福祉教育の方法・技術を修得する。障害者が社会で生きる困難を子どもが感じることを伝える。</p>

◇こども福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
児童館の機能と運営	<p>児童館の基本的な役割と、児童館施策の経緯・児童館活動の実際を理解する。子どもの発達における「遊び」の大切さを知り、大人が子どもの遊びを支援するときに求められる視点と技法を習得する。児童館の今日的課題を学び、児童厚生員が子育て支援に取り組む際の視点を理解する。</p>
こども音楽療育概論	<p>乳幼児の心身の発達及び音楽面の発達、音楽が持つ医学的・臨床心理学的な働き、音楽療育のプログラム内容、セッションにおける技法等、音楽療育の基本を学ぶ。音楽が持つ医学的・臨床心理学的な働きについて説明できることを到達目標とする。</p>
特別支援教育の理解	<p>通常学級にも在籍している特別な支援を必要としている幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難を理解する。子ども達の特別なニーズに基づく教育や指導について学び、「チーム学校」の一員として組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>
発達と疾病・障害	<p>子どもの成長・発達段階の特徴の理解を中心に、病気や障害を有する子どもの心理・生理・病理を学ぶ。障害のある子ども、疾患のある子どもとその家族に対する理解を深め、子どもたちが幸せに成長するために必要な力であるレジリエンスを育む課題やワークを取り入れ、学生のアクティビティを高めていく。</p>
発達障害児への支援	<p>発達障害のある子どもの支援に関する基礎的な知識と理解、具体的な支援方法について演習を通して学ぶ。特に、自閉症スペクトラム、ADHD、LD等の発達障害のある子どもの障害特性の正しい理解、子どもの特性に応じた支援のあり方、家族への支援について、実践的な力を培うことを目的とする。演習では発達障害のある子どもへの適切な環境設定や事前の工夫、子どもの行動への具体的な関わり方について考える。</p>
こころとからだのしくみ I	<p>人体の骨、筋肉、神経、各種臓器の機能などを理解し、基礎的な医学用語を修得することによって、医療機関における専門職と協働できる力を身につける。また、脳科学を学び、脳の機能障害について理解する。</p>

◇こども福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
こころとからだのしくみⅡ	<p>生理解剖と脳神経・神経一般について学ぶ。小児が罹患しやすい代表的な感染症や、小児の発達・発育過程や発達障害の特性について学ぶ。簡単な神経学用語や小児の発達について理解・説明できる。小児特有の感染症や発達障害の特性を理解・説明できる。</p>
施設保育士論	<p>乳児院や児童養護施設等の社会的養護施設において児童の養育に携わる保育士養成に焦点を絞り授業内容を構成する。虐待を受けた児童へのケアのあり方から始まり、関係機関としての児童相談所の役割、さらには今日強く求められている施設の地域の子育て拠点的功能についても授業対象とする。施設の管理運営面においても知識を修得する。</p>